

2013年土木学会全国大会 国際パネルディスカッション開催報告

インフラにおける保守と更新に関する問題は、どの国においても似通っています。すなわち、保守の重要性に対する自覚と理解の不足、限られた予算、技術者の能力不足などです。その問題の一つは、インフラの管理と更新のための予算が限られていることがあります。この問題に取り組むため、幾つかの国では、インフラ・レポート・カードといったツールを作りだし、政府や政策決定者にインフラの現状を目に見えるようにしています。このレポート・カードは、インフラ管理・更新を優先するように国家予算に影響を与えることになるでしょう。

レポート・カードを作成するためには、インフラの状態を正しく評価しなければなりません。そのため、各インフラのタイプや場所に合わせたアプローチが必要です。各々のインフラにはそれぞれの性質があり、持っている危険性も異なります。加えて、誤った評価や検査を回避するためには、適切な評価検査基準、管理そして有能な検査員が必要です。



イムラン教授
インドネシア
バンドン工科大学



パネリスト&コメンテーター

世界的な気候変動により自然の脅威が増大し、それにあわせて評価基準のアップデートも必要ですが、さらには、一定の場所におけるインフラのモニタリングのために、特別な評価が必要なことがあります。警告システムが求められる場合もあるでしょう。このような特別な条件のもと、インフラの維持管理のために重要なことは、インフラの状態をチェックする技術と考えます。この点において日本は優れた国の一つとして知られています。安全なインフラを維持するために、様々なインフラに合うモニタリング技術が開発されています。

既存のインフラの状態は正確に計測しなければならず、適切な評価をしないと大惨事につながる可能性があります。この十年の間に、インドネシアを含む多くの場所でインフラのトラブルが発生しています。インドネシアでのトラブルの原因は、経年劣化だけではなく維持管理不足もあります。政策決定者は、時としてインフラを維持管理する重要性を看過したり、また維持管理に多くの予算を充てることに消極的になることがあります。さらに、「デザイン」が重点を置いているのは、いまだに建設するためのデザインであり、維持管理のためにデザインをすることには置かれていません。そのため、設計の段階で維持管理を考慮に入れることは、決して多くありません。たとえば、ベアリングを交換するための点検のなされていない橋も見受けられます。

この“建設するためにデザインをする”という姿勢は、国内にあるインフラの状態に大きなばらつきを生んでいます。その為、様々なインフラの状態に合うように、幾つもの評価基準を整備する必要があります。インフラを取り巻く環境においては、インドネシアと日本のインフラでは多くの類似点があります。現在、日本において問題を有するインフラへの対策は著しく進歩していますが、今後どのように発展していくのか大変興味深く、また、そうした活動から学ぶものが多くあるように思えます。



発言中のイムラン先生